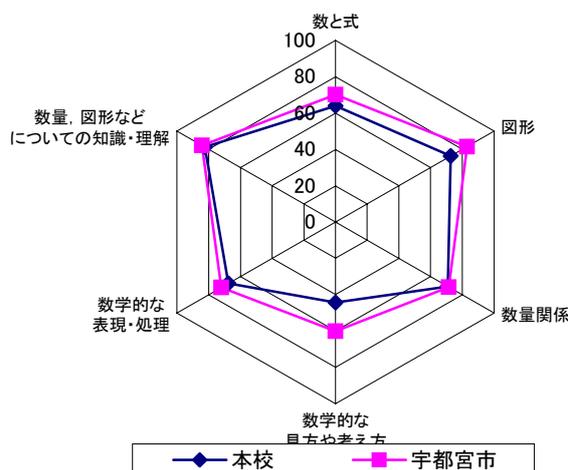


宇都宮市立瑞穂野中学校第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	63.9	70.1
	図形	72.6	82.9
	数量関係	70.9	71.4
観点別	数学的な見方や考え方	44.3	60.1
	数学的な表現・処理	67.5	72.0
	数量、図形などについての知識・理解	82.5	84.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (63.9%)	全般的に宇都宮市の平均正答率よりも低く、領域の中では最も平均正答率が低い領域である。2元一次方程式の解や文字式の利用、連立方程式の利用の平均正答率はそれぞれ57.0%、27.8%、40.5%であり、宇都宮市の平均正答率よりも10%以上低く、理解が不十分であるとともに、読解力や応用力が不足している。	1年生で学んだ1元一次方程式を含め、解の意味について再確認する必要がある。また、文章を読み取り、数や文字を使って式で表す練習に重点をおく必要がある。
図形 (72.6%)	ほとんどの問題に対して本校の平均正答率が80%を超え、他の領域の平均正答率よりも高い。多角形の角や三角形の合同に関する問題は理解できている。三角形の合同の証明において、本校の平均正答率は24.1%と低く、理解が不十分である。	仮定と結論の意味や証明の仕方について再確認する必要がある。証明の仕方についてはある程度パターン化して指導してきているが、今のところまだ問題演習の機会が少ないため、今後多くの問題演習を経験することで、証明の意味や証明の仕方について十分に理解させる必要がある。
数量関係 (70.9%)	全般的に宇都宮市の平均正答率と大きな差はなく、平均正答率が70%を超えているが、1次関数の利用ではグラフを読み取る問題での正答率が54.4%、64.6%と宇都宮市の平均正答率よりも7%程度低い。	文章問題やグラフを読み取る問題演習に重点を置く必要がある。また、比例と反比例の領域と1次関数の領域を系統的に授業で取り扱い、関数に対する理解や表現・処理をさらに深める必要がある。